

生涯学習大沼令和7年度第3回の教養講座を開催しました

令和7年9月19日(金)茨城県立歴史館の出前講座を21名の入講生と聴講しました。

演題『鯰絵と鹿島信仰』

講師：茨城県立歴史館 史料学芸部 学芸課 学芸員 森戸日咲子様。

鯰絵とは安政江戸大地震後に、地震を起こす大鯰を題材とした多色刷木版画である。

しかし発行された鯰絵の中には世相を風刺的に描いたものも有ったため、幕府により発行が禁止されたがわずか2ヶ月間で200種類以上の鯰絵が発行された。

しかし庶民の間ではその後も発行され、役者絵、名所絵、武者絵、歌舞伎役者絵等の風刺絵や洒落っ気の有る絵も多数登場した。

鯰絵と鹿島信仰については、日本の北の軍事的要所である鹿島神宮が、安政当時国士守護を司る鹿島神が地下の大鯰を要石で封じているという言説が、地方から江戸にまで広がったと考えられる。

実際に安政地震直後に鹿島神宮に地震鎮めの祈願を依頼した史料が残っており、更に安政大地震が起きた10月は国中の神々が出雲に出向いて留守(神無月)だったため、鯰が要石の封印から抜け出し、暴れて地震を起こしたとのストーリーも成り立つため、鹿島信仰は地震に対する安心感から世間に広まった。

因みに、鯰絵が発行された時期には、鯰の値段は鰻の6倍もしたそうです。

後半は、県立歴史館収蔵の表現の異なる貴重な鯰絵の紹介をしていただいた。

紹介いただいた鯰絵は、安政江戸大地震後の庶民の暮らしや、その後の発行された役者絵、名所絵、武者絵、歌舞伎役者絵等の風刺絵など、また鯰が庶民の味方となりお金持ちをいじる鯰絵などもあり、入講生も鯰絵が安政江戸大地震後に流行したことが理解できたことと思います。

生涯学習部 尾崎重美

